



ストニントン島

南緯68度11分 西経67度00分

主な特徴

- 歴史的なイースト基地 (米国)
- ストニントン島の歴史的な基地E (英国)、ノエルとアレンの墓を含む
- 氷河の景観



概要

地形	ストニントン島はマルグリット湾の南端、Neny Fjordにある、長さ750m、幅250m程の小島である。島には露岩の合間に比較的平らな岩や砂利が続く場所がある。最近まで、北東氷河で南極大陸とつながっていた。
動物相	島で繁殖する動物はいない。
植物相 (植生)	ストニントン島からは、地衣類7種とコケ類2種が報告されている。
その他	イースト基地は、南極条約のもとで第55南極史跡記念物に指定されている。リチャード E. バードを隊長とする米国の軍南極探検隊 (1939~1941年) の時期に建設され、ロンネ南極調査探検隊 (1947~1948年) に引き継がれた。ロンネ南極調査探検隊には、エディス・ロンネとジェニー・ダーリントンも同行し、二人は南極大陸で最初に越冬した女性となった。イースト基地の建物は、「基地E」の建設、運用中にも英国により使用され、改築された。「基地E」は、南極条約のもとで第64南極史跡記念物に指定されている。「基地E」は、1946年に、米国のイースト基地から100mの位置に英国が建設したが、海氷条件により近づくことができなくなり、1950年に閉鎖された。1960年、南極半島南部におけるフィールドワークのための拠点として再び開かれ、1961年には、2階建ての鉄骨、ベニヤ板張りの小屋が新しく建てられた。ストニントン島は、北東氷河経由で半島に渡る時の中継地点として主に利用された。ストニントン島の北の氷河には、120匹ものソリ犬がつながれていた。そこは航空機の滑走路としても使われていた。最初の「基地E」は1972年に事故により全焼し、所々に残った焼け跡だけがもとの場所を示している。基地は1975年2月に閉鎖された。

訪問者の影響

既知の影響	なし。
潜在的影響	火災。歴史的工物物の攪乱。小規模な燃料漏れ。

上陸要件

船舶*	乗客500名以下の船舶 (次の「訪問者」の項も参照) *。一度に1隻の船舶に限る。 1日あたり (午前0時から翌午前0時まで) 2隻以内で、そのうち乗客200名を超える船舶は1隻までとする。
訪問者	探検ガイドとリーダーを除き、常に上陸は一度に100名以内。建物内部への訪問者数は、1棟につき、常に12名以内に限る**。訪問者はよく指示に従わなければならない。イースト基地は米国が第55南極史跡記念物に、「基地E」は英国が第64南極史跡記念物に提案した。「基地E」への訪問は、当事国から事前に許可を得た場合のみ可能である。訪問に先立ち、本地区を管理する当事国に通知をしなければならない。

訪問地区

上陸地区	2つの基地の南側にあるFishtrap Coveが好ましい。
閉鎖地区	イースト基地への立ち入りは、中央の小屋に限られる (建物の北端の主扉から入る)。南側の拡張部分、気象タワー、寝室、寝室の南側のフィン・ロンネ夫妻が当初使用していた小さな小屋、ゴミ捨て場への訪問者の立ち入りは禁止されている。 「基地E」への立ち入りは、中央の小屋と主発電機の小屋に限られる。犬の檻や棧橋を含め、いかなる付属設備や関連構造物にも立ち入りは禁止されている。
ガイド付き徒歩地区	なし。
自由散策地区	訪問者は細かい指示を受けた上で、自由散策が許されている。

*: ここでいう船舶とは、12人以上の乗客を運搬する船に限る。

**: 訪問者は自らの責任で基地を訪問すること。英国および米国政府機関はいずれも、個人の怪我や財産の損傷に対して責任を負わないものとする。

ストントン島

南緯68度11分 西経67度00分



訪問者の行動規範

上陸後の行動

ゆっくりと注意して歩くこと。動物に道を譲ること。

小屋あるいはその他の建物内での宿泊はいずれも禁止されている。緊急時を除き、小屋への訪問は教育目的に限られ、他のいかなる目的にも利用してはならない。

「基地E」の小屋の窓は板でふさいであるので、室内を見るには懐中電灯が必要である。

消失した「基地E」の焼け跡には触れないように注意する（これは米国と英国の建物の間にある）。そこには土台の煉瓦や灰、鉄材の破片などがあるので、焼け跡だとわかる。

トーマス・アレンとジョン・ノエルの墓は、地面の下に棺がわずかに隠れた石塚の形をとっている。ここでは相応の敬意を払うこと。

建物の内外の工作物に触れたり、持ちだしたりしてはならない。

椅子などの家具に座ったり、テーブルや作業台に物を置いたりしないこと。

建物に入る前に、長靴や上着から雪や砂を払うこと。リュックサックや大きな鞆は小屋の外に置いておくこと。

訪問後、砂利、泥、雪を掃いておくこと。

小屋の中や周囲での喫煙のほか、ろうそく、マッチ、コンロの使用は禁じられている。

訪問時には、「基地E」内にある訪問者簿に記録を残すこと。探検リーダーは基地の状態に関する報告書を英国のAntarctic Heritage Trustに提出しなければならない。

訪問者は、出発の際、基地を安全かつ確実に閉鎖して立ち去らなければならない。

注意事項

上陸地点の岩場は、濡れているとすべりやすい。

島は非常に強い滑降風（カタバ風）が吹くことが多い。



イースト基地の寝室のある
建物の側面

米国イースト基地



英国基地



イースト基地が捨てた軽戦車

